

公約に関する 取り組み



令和8年2月
帯広市

目次

1. 食で価値をつくるまち

施策	頁数
1 広域交通ネットワークでの優位性を踏まえ、「食の備蓄・物流拠点おびひろ」構想を促進します。	2
2 十勝・帯広の地域資源を活かした新たな事業創発を支援します。	
3 企業や関係機関と連携し、社会人などの「学び直し」を支える環境づくりを進めます。	3
4 ワーケーション誘致やファン開拓、ふるさと納税などを通じて、関係人口を拡大し、地域の新たな価値づくりを進めます。	
5 生産者や企業、専門家などと連携し、「おびひろの『おいしい』給食」プロジェクトを推進します。	4
6 市民や企業、関係機関と連携し、食をはじめ観光やスポーツ、みどりなど様々な分野で「健康」の視点からの取り組みを進めます。	

2. 森と公園に暮らすまち

施策	頁数
7 次なる50年の帯広の森づくりへ、市民の日常生活に根ざした利活用のあり方を描き、市民協働の取り組みを進めます。	6
8 帯広少年院跡地の土地利用を方向づけ、国などと協議を進めます。	7
9 緑ヶ丘公園に新たな価値や魅力を加える検討を進めます。	
10 中心市街地などで、人間中心の「歩ける空間」づくりを進めます。	8

3. 環境・デジタルで輝くまち

施策	頁数
11 「2050年ゼロカーボン」に向けた戦略を描き、地域の特性を活かした脱炭素の取り組みを進めます。	10
12 「デジタル田園都市おびひろ」を目指し、暮らしや産業、行政などでのデジタル活用策の全体像を描き、企業などと連携し取り組みを進めます。	
13 企業などと連携し、 ^{マース} MaaSや自動運転などの新しい移動サービスの実証、実装を進めます。	11
14 企業や専門家などと連携し、ICTを活用した多彩な授業づくりを進めます。	

4. 未来を信じるまち

施策	頁数
15 十勝管内はもとより、東北北海道の中核都市などとの連携を一層強化します。	13
16 第7期総合計画の着実な推進を図ります。	
17 新型コロナウイルス感染症から市民の生命と暮らし、地域経済を守ります。	14

この冊子は、令和4年度以降の公約に基づいた施策の取り組み状況について、「食で価値をつくるまち」「森と公園に暮らすまち」「環境・デジタルで輝くまち」「未来を信じるまち」の4つの項目毎にとりまとめたものです。

時点の表記については、以下のとおりとしています。

凡例：R4 ⇒ 令和4年度
R4.10時点 ⇒ 令和4年10月時点

なお、写真、グラフ等のデータにつきまして、出典の記載のないものは帯広市調べです。

1 食で価値をつくるまち

食や農業、自然が持つ価値への関心の高まりや高速道路ネットワークの進展に加え、日高山脈襟裳十勝国立公園の誕生により、フードバレーとかちを推進してきた十勝・帯広への注目度や新たに人とモノの流れを生み出す可能性が増しています。

十勝・帯広の食の価値をさらに高め、地域の文化を育み、未来につないでいくため、企業や関係機関と連携し、食の備蓄・加工・物流拠点の形成や地域資源を活かした事業創発のほか、関係人口の創出や給食の魅力向上などの取り組みを進めました。

(1) 広域交通ネットワークでの優位性を踏まえ、「食の備蓄・物流拠点おびひろ」構想を促進します。

広域交通ネットワークの結節点である十勝・帯広の地理的優位性を活かし、民間事業者の新たな投資を呼び込み、食の備蓄・加工・物流拠点の形成をはかるため、農業団体や関係機関等と協力し、土地開発に向けた課題の整理や土地の開発手法・許認可に関する北海道との協議などを行いました。

主な取り組み、実績等

- ◆高速道路整備促進に関する国や北海道への要望
- ◆物流に係る事業者や関係機関、団体等からの情報収集を実施（R4～）
- ◆帯広川西IC地区土地整理組合設立準備委員会から食品加工及び流通業務団地を主眼としたIC周辺の土地開発に向け、市の協力を求める内容の要望書を受理（R4）
- ◆北海道（農政部局、都市計画部局）と土地の開発手法・許認可について協議を実施（R4～）
- ◆市、十勝総合振興局、農協などで構成する検討チーム会議において土地開発に関する協議を実施（R5.1～）
- ◆「北海道における物流の課題と十勝の役割」等をテーマに有識者を招いた講演会等を実施（R5.8、R6.1）
- ◆準備委員会が帯広川西ICフードテックパーク事業組合を設立（R6.4）
- ◆事業組合が帯広川西ICフードテックパークランドデザイン案を公表（R6.11）
- ◆事業組合から委託された民間事業者が帯広川西ICフードテックパーク（第3工区）のエリア開発を担う特別目的会社（SPC）を設立（R7.3）



(2) 十勝・帯広の地域資源を活かした新たな事業創発を支援します。

域内外の人材を巻き込み、食や農業、自然など、地域の優位性を活かした魅力ある仕事づくりを進めるため、とかち・イノベーション・プログラム等による事業創発支援を実施したほか、起業家が行う新たな事業化や事業規模の拡大に向けて専門家による伴走支援に取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆金融機関をはじめとする関係機関との連携の下、とかち・イノベーション・プログラムや十勝ドリームマップ会議を開催し、地域の優位性を活かした事業構想づくりを促進
- ◆とかち財団による事業創発拠点LANDの運営やとかちビジネスチャレンジ補助金による支援を実施し、地域の新たな事業創発や域内外の人材交流を促進
- ◆開始から10年が経過したとかち・イノベーション・プログラムについて、地域で持続可能な取り組みとするため、推進体制の見直しを実施
- ◆金融機関をはじめとする専門家等と連携し、新たな事業化や事業化後の規模拡大に向けた伴走支援を導入



○事業創発支援の実績

取組内容	期間	実績
とかち・イノベーション・プログラム	H27～R7	延べ参加者数 730名 事業構想数 92件 事業化数 28件
十勝ドリームマップ会議	H28～R7	延べ参加者数 889人
とかち財団による事業創発支援	R1～R7	LAND延べ利用者数 26,410人 補助金採択件数 40件

○事業化の例（R4～）

法人・事業名	サービス内容
株MX	食品廃棄を減らすマーケットプレイス事業
株十勝平野蒸溜所	十勝産スピリッツ製造販売事業
Discover WANTs	個別の旅行プランのセッティング
移動式天然モール足湯	移動式天然モール足湯設備の提供

※「LAND利用者」は、R7.9時点の累計

(3) 企業や関係機関と連携し、社会人などの「学び直し」を支える環境づくりを進めます。

社会人をはじめとする多くの人々が互いに高め合うための学びの場を提供し、将来の事業創発につながる人材育成やコミュニティの形成を促進するため、とちぎ熱中小学校と連携し、地域の食などを活かした学び直しの環境づくりに取り組みました。

主な取り組み、実績等

◆大人の学び直しと人材交流を目的とした「とちぎ熱中小学校」と連携し、十勝の食や農業にフォーカスした「食の熱中小学校」の取り組みを支援

- ・社会人向けの食の学び直し講座 (R4)
- ・親子料理教室と食育・味育講座 (R5)
- ・食の学び直しをテーマとした大人の社会見学 (R5)
- ・美食を学ぶスタディーツアー (R6)
- ・農家をめぐるモニターツアー、十勝の食の未来フォーラム (R7)



○「食の熱中小学校」の参加者数

R4	R5	R6	R7
129人	42人	15人	152人

◆地域経済の発展に向けたリーダーシップを発揮する人材を育成するため、帯広畜産大学と共同でフードバレーとちぎ人材育成事業を実施

○フードバレーとちぎ人材育成事業の受講者数

R4	R5	R6	
238人	195人	236人	(H24～R6 累計 受講者数 2,734人)



食の熱中小学校
美食を学ぶスタディーツアー



(4) ワークーション誘致やファン開拓、ふるさと納税などを通じて、関係人口を拡大し、地域の新たな価値づくりを進めます。

十勝・帯広の新たな価値づくりに関わる関係人口の拡大に向け、首都圏の十勝ファンを対象としたイベントの開催や地元企業の商品・サービス開発への支援、大学との連携協定に基づく地元企業と学生との接点づくりなどに取り組みました。

主な取り組み、実績等

◆十勝・帯広に関心がある首都圏企業等に対し、ワークーション誘致などに向けたプロモーションを実施

◆十勝ファンと地元企業との交流の促進

- ・ファンクラブ「とちぎテーブル」を設立
- ・「とちぎファンミーティング」の開催 (東京4回、帯広1回開催)
- ・十勝ファンと地元企業が商品開発等を実施

◆全国の大学・学生と地元企業の接点づくりに向け、インターンシップの受入や地域産業の理解を深めるフィールドスタディを実施

◆大学生と地元企業の接点をつくるプログラム参加者数 319名 (R4～R6)

◆十勝・帯広を学びの場とする大学との連携協定の締結 (産業能率大学 (R5.7)、成蹊大学 (R6.9))

◆成蹊大学が十勝・帯広におけるフィールドワーク等を行う「国際共創学部」を開設 (R8.4)

◆地元企業と連携し、ふるさと納税返礼品の魅力向上の取り組みを実施

◆就職やテレワークの活用などにより帯広に移住した方に移住支援金を支給



とちぎファンミーティング



成蹊大学との連携協定

成蹊大学 × 帯広市
連携協定調印式

(5) 生産者や企業、専門家などと連携し、「おびひろの『おいしい』給食」プロジェクトを推進します。

児童生徒の記憶に残るおいしい給食づくりに向け、生産者や企業、食の専門家の協力を得ながら新メニューの開発を進めたほか、生産者との連携による地元産食材を活用したメニューの提供、PR動画による情報発信などに取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆生産者や食の専門家等と連携した新メニューを開発し、ふるさと給食等を通じて提供
- ◆生産者等と連携し、十勝・帯広の安全安心な食材の活用を推進
- ◆学校給食標語コンテストやPR動画を活用した食育の推進
- ◆栄養教諭等による食育指導を通じた食への理解促進
- ◆帯広市の学校給食に関する情報発信
 - ・PR動画を作成しYouTube配信
 - ・保護者等の理解促進に向けた試食会や意見交換会を開催
- ◆地産地消や食育に取り組む帯広市の学校給食がテレビ番組で紹介(R5)
- ◆地元産食材を積極的に取り入れた献立の提供が評価され、北海道学校給食コンクールで優秀賞を受賞(R6)
- ◆地元産食材の活用や食育など、地域の生産者等と連携した取り組みが評価され、全国学校給食甲子園で優秀賞を受賞(R7)

○食育アンケートで『給食が好き』と回答した児童生徒の割合が増加

R4	R5	R6
76.1%	76.8%	77.6%

開発した新メニュー

十勝野菜のオベリベリ煮込み (R4)

とうきびアマム (R4)

南瓜と金時豆のカレーコロッケ (R5)

大豆と長芋のミートボール (R5)

南瓜と小豆のムース (R5)

とかポテスイートアマム (R6)

十勝じゃがもちパン (R7)

サラダに合うドレッシング~シェフ仕立て~2種 (R7)

十勝野菜のオベリベリ煮込み



(6) 市民や企業、関係機関と連携し、食をはじめ観光やスポーツ、みどりなど様々な分野で「健康」の視点からの取り組みを進めます。

十勝の雄大な自然をフィールドに、市民の心身の健康づくりを促進するため、サイクルツーリズムを推進したほか、フードバレーとかちマラソンや緑ヶ丘公園等におけるスポーツイベントの開催などに取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆市民をはじめ、域内外の多くの人が十勝の様々なフィールドで自転車を楽しむことができる「十勝サイクルウィーク」の開催支援
 - ・砂利道や未舗装道路を走る十勝グラベル、帯広デジタルスタンプラリー等
- ◆子どもからお年寄りまで幅広い層がスポーツに親しむことができる「スポーツフェスティバル」を開催
 - ・ピククルボール、ポッチャ、車いすバスケット、水中歩行等
- ◆企業版ふるさと納税寄附(協賛)を活用した「フードバレーとかちマラソン」の開催
 - ・十勝産の食や食文化を楽しんでもらう食フェスタを同時開催
- ◆緑ヶ丘公園や帯広の森にてスポーツイベントを開催
 - ・自然を活かしたウォーキングイベント、クロスカントリー、ヨガ等

十勝グラベル



フードバレーとかちマラソン (食フェスタ)



各取り組み	R4	R5	R6	R7
十勝サイクルウィーク	—	200人	913人	141人
スポーツフェスティバル	2,411人	2,734人	3,024人	2,721人
フードバレーとかちマラソン	4,497人	5,024人	5,463人	6,281人

2 森と公園に暮らすまち

市民協働で育んできた帯広の森や多様な機能を有する緑ヶ丘公園は、市民の財産となっており、こうした自然やみどりを大切にするまちづくりは、域外からの共感を生み、まちの魅力を高めています。

公園などの都市のみどりに新しい価値を加え、市民の心豊かな暮らしや特色あるまちづくりにつなげるため、利活用のあり方の検討や魅力向上に向けた取り組みを進めました。

主な取り組み、実績等

- ・アンケートや50周年記念シンポジウムを実施
- ・50周年記念誌の作成

- ・森の間伐材を原料とした乳児用木製玩具「森の輪」を新生児に配布する帯広の森ファーストToy事業を開始（R8～ 配布予定）
- ・帯広の森への理解と親しみを醸成するため、帯広の森たんけんブックや写真絵本を作成
- ・高校生・一般向けのフォトコンテストを実施

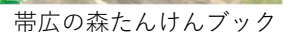
応募総数：260作品

・第一生命、明治安田生命等と連携した森づくり活動を実施



H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
15,030人	13,958人	13,753人	16,422人	17,186人	16,533人	12,814人

(R7.12時点)



- (8) 帯広少年院跡地の土地利用を方向づけ、国などと協議を進めます。
- (9) 緑ヶ丘公園に新たな価値や魅力を加える検討を進めます。

帯広少年院跡地の土地利用と豊かな都市のみどりである緑ヶ丘公園を結び付けながら、エリア全体の魅力向上をはかるため、少年院跡地の土地利用可能性調査を実施し、市民や事業者を対象としたアンケートやワークショップを行い、緑ヶ丘公園エリアビジョンを策定したほか、公園内に立地する生涯学習施設の将来的な建替えの可能性検討などに取り組みました。

主な取り組み、実績等

◆Park-PFIの活用事例について先進地視察の実施 (R4)

◆帯広少年院跡地土地利用可能性調査の実施 (R5)

- ・ 緑ヶ丘公園エリア(緑ヶ丘公園と帯広少年院跡地)の土地利用の可能性を広げることを目的に、緑ヶ丘公園の現状・課題の整理、当該エリアに対する域内外の民間事業者(17社)の事業ニーズやアイデア等の調査を実施
- ・ 調査をもとに「緑ヶ丘公園エリアの魅力向上に向けた検討資料」を作成

調査結果

緑ヶ丘公園と少年院跡地をつなげて考えて、行政と民間が連携することで、「あそび・まなび」「しごと」「健康」の分野で、市民が集まる場所、日常的に通いたくなる場所として幅広い可能性があることを整理

◆緑ヶ丘公園エリアの魅力向上と土地利用の方向性を示すとともに国等との協議に向けた資料とすることを目的に「緑ヶ丘公園エリアビジョン」の作成 (R6)

- ・ エリアの魅力向上に向けたアンケートの実施 (回答者数 1,819人)
- ・ 市民や公園利用者とエリアの魅力向上を考える第1回パブリックイベントの実施 (参加者数 84人)
- ・ エリアに関心のある事業者等からの情報・意見の募集 (提案者数 15社)
- ・ 活動アイデアとその実現に向けた取り組みを考える第2回パブリックイベントの実施 (参加者数 30人)
- ・ 町内会との意見交換 (緑栄連合町内会 12名)
- ・ 高校生を対象としたワークショップの開催 (全6回 10人)
- ・ 職員向けのワークショップ開催 (31名)

第2回パブリックイベント



【緑ヶ丘公園エリアの魅力向上と土地利用の方向性】

○緑ヶ丘公園の魅力向上に向けた取り組み

- ・ 市民や企業、団体等が連携して公園を運営し、公園の持つ機能や役割をまちづくりに活かすパークマネジメントによる利活用の促進を図る
- ・ 公園の利便性向上に向けて飲食などの民間サービスの導入を目指す
- ・ 快適な空間づくりに向けて十勝池や緑地の環境改善、老朽化したトイレの更新などを進める

○帯広少年院跡地の利活用の検討

- ・ 民間や公共利用、公民連携による少年院跡地の利活用について検討を進める
- ・ 将来的に建替えの可能性のある児童会館と百年記念館の時代に対応した施設機能のあり方等を検討する

◆緑ヶ丘公園の魅力向上に向けた取り組み

- ・ 自然を活かした観察会や健康づくり、物販イベント等の支援の実施 (R5～)
- ・ 民間事業者と連携し、売店・ボートの運営再開 (R6～)
- ・ 芝生エリアを活用する試行的な取り組みや新たな利活用の提案募集により、キッチンカーによる物販イベント等を実施 (R7)
- ・ 「パークミーティング緑ヶ丘」を設立し、パークマネジメントの手法の検討 (R7)

◆少年院跡地の利活用の検討 (R7)

- ・ 帯広市児童会館・帯広百年記念館のあり方の検討

自然観察会



芝生活用の試行的な取り組み



緑ヶ丘公園エリア



(10) 中心市街地などで、人間中心の「歩ける空間」づくりを進めます。

誰もが安心して歩くことができ、楽しめる空間づくりに向け、事業者や経済団体、商店街等と連携し、中心市街地において、人が集い賑わうイベントの開催や、中心市街地の活性化に資する活動への支援などに取り組みました。

主な取り組み、実績等

◆全天候型アーケードの歩行者天国「広小路マーケット」の共催

- ・主催：帯広広小路商店街振興組合、帯広商工会議所 共催：帯広市
- ・第1回（R5.6） 第2回（R5.9） 第3回（R6.6） Xmas（R6.12 全6回） 第4回（R7.6）

◆「まちなか歩行者天国」の開催支援

- ・主催：帯広まちなか歩行者天国実行委員会（事務局支援：帯広市）
- ・各年12回開催（※R4は第5回が雨天中止。R7は第13回として20周年記念を開催）

◆「広小路七夕まつり」の開催支援

- ・主催：帯広広小路商店街振興組合（R5～R6）
おびひろ七夕フェス実行委員会（R7）
- ・各年8月に3日間開催

◆広小路商店街を活用した市民大学講座の開催

- ・帯広広小路商店街の歴史について学ぼう（R4.10）
- ・オビヒロホコテンのあゆみを学ぼう（R5.9）
- ・まちなかの歴史を学びながら商店街を散策しよう（R6.7）
- ・ライフキネティック体験講座～オビヒロホコテン会場で運動しよう～（R6.8）

◆中心市街地の賑わい創出につながる事業を支援

「帯広市まちなか催事支援事業補助金」を創設し12件が採択（R7）



○広小路マーケットの来場者数

第1回（R5.6）	第2回（R5.9）	第3回（R6.6）	Xmas（R6.12）	第4回（R7.6）
8,883人	3,786人	6,856人	5,886人	5,456人

○まちなか歩行者天国の来場者数

R4	R5	R6	R7
約54,300人	約73,000人	約62,000人	約90,500人

○広小路七夕まつり来場者数

R5	R6	R7
約80,000人	約90,000人	約93,000人



3

環境・デジタルで輝くまち

帯広市が長きにわたり進めてきた、田園都市の創造を基本理念においたまちづくりは、経済、社会、環境が調和した持続可能な社会を目指すSDGsの考え方に通じるものです。

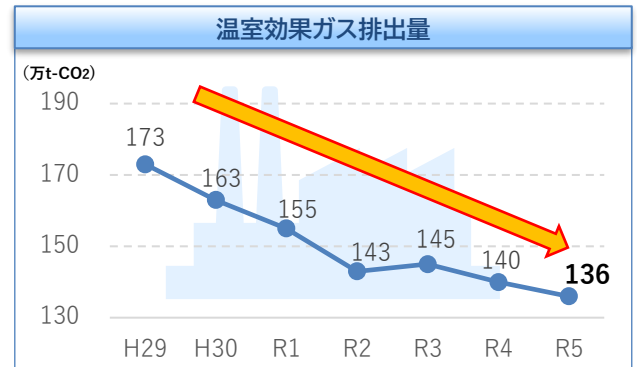
先人たちから受け継いできた都市と自然が調和するまちづくりを基盤に、大都市とは異なる暮らしやすさや魅力を高めるため、ゼロカーボンの実現に向けた取り組みや市民サービスのデジタル化を進めました。

(11) 「2050年ゼロカーボン」に向けた戦略を描き、地域の特性を活かした脱炭素の取り組みを進めます。

国が目指す2050年ゼロカーボンの実現に向け、「帯広市ゼロカーボン推進計画」を策定し、省エネルギー対策の推進や再生可能エネルギーの普及拡大、ライフスタイルの転換などに取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆帯広市ゼロカーボン推進計画の策定・推進 (R6.3～)
- ◆一般家庭や事業者に対する再生可能エネルギーや省エネルギー機器の導入支援
- ◆省エネ性能等に優れた住宅建築・改修への支援
- ◆森林の伐採や植栽による市有林の適正管理
- ◆市有林におけるCO₂吸収量が多いクリーンラッチの植栽 (5,460本 (R4～6))
- ◆バイオガスプラントの事業化支援 (3基 計660kW)



○新エネルギー導入促進補助金 (実績) (R7.12時点)

	R4	R5	R6	R7
太陽光発電システム	78件	120件	100件	93件
定置型蓄電池	53件	83件	98件	73件
V2H充電設備	—	—	1件	1件
木質ペレットストーブ	3件	5件	5件	7件
エコキュート、エコジョーズ	243件	247件	245件	160件

○省エネ住宅に対する支援 (実績) (R7.12時点)

	R4	R5	R6	R7
おびひろスマイル住宅補助金 (～R5) 北方型住宅ZERO補助金 (R6～)	6件	3件	2件	3件
住まいの改修助成金 (うち省エネ対象)	238件	211件	219件	198件

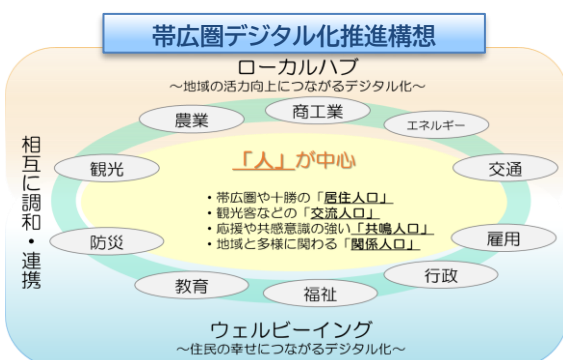
(12) 「デジタル田園都市おびひろ」を目指し、暮らしや産業、行政などでのデジタル活用策の全体像を描き、企業などと連携し取り組みを進めます。

デジタル技術を活用し、地域の活力や生活の利便性の向上につなげていくため、生活圏が重なる1市3町で地域のデジタル化を進める構想を策定し、スマート農業の導入支援を行ったほか、市役所窓口や行政手続きのデジタル活用などに取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆帯広市、音更町、芽室町、幕別町が帯広圏デジタル化推進協議会を設置 (R4)
- ◆帯広圏デジタル化推進協議会の専門部会として、アドバイザーボードを設置・開催 (R5～)
- ◆「帯広圏デジタル化推進構想」を策定 (R6.2)
- ◆デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、スマート農業の推進 (R6)
- ◆帯広圏4自治体実務者DX研究会の開催 (R6～)
- ◆窓口サービスのスマート化の検討 (R7～)

・窓口DXの庁内横断プロジェクトの設置・開催



母子健康手帳アプリ



○デジタル活用の主な事例

- ・スマート農業の導入支援 (ロボットトラクター 20台、農業用ドローン 28台)
- ・自動運転の実証事業
- ・PMH(医療費助成情報の連携)の環境構築
- ・公共施設での障害者手帳アプリの対応
- ・保育ICTシステムの導入
- ・住民票等証明書交付のオンライン化
- ・母子健康手帳アプリの導入
- ・中学生対象の「こころの健康観察」アプリの導入
- ・生成AIの活用
- ・窓口手続きのオンライン予約システムの導入
- ・窓口等における音声認識翻訳アプリの一部導入

(13) 企業などと連携し、MaaSや自動運転などの新しい移動サービスの実証、実装を進めます。

将来的な地域住民の移動手段の確保につなげていくため、地域の交通事業者等と協力し、国の補助事業を活用しながら、自動運転バスの実証運行に取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆新しい移動サービスの導入に向けた検討（R4）
 - ・交通事業者等と新たなモビリティサービスの導入に向けた検討を実施
 - ・自動運転実証とMaaS実装検討のための先進地視察
- ◆自動運転バスの実証運行の実施（R5）
 - ・おびひろ氷まつり期間中に自動運転バスの実証運行を実施（R6.2）
- ◆自動運転バスの実証運行の実施（R6～R7）
 - ・自動運転バスを2台導入し、競馬場、帯広駅、緑ヶ丘公園の市街地路線と大空地区路線を運行する実証事業を実施
 - ルートの① 北海道ホテル～帯広駅～帯広競馬場
 - ルートの② 帯広駅～緑ヶ丘公園～おびひろ動物園
 - ルートの③ 大空地区ルート（R7.2）
- ◆自動運転バスの運行継続に向けた事業者支援（R7）
 - ・国の補助事業へ申請し採択
 - ・ルート、ダイヤの調整、市民周知の実施
 - ・今後の運行継続に向けた先進地視察や情報収集



自動運転バスの概要

車両名	Mica（ミカ）
車両定員	7人＋運転手が同乗
運行速度	時速20km未満
特徴	障害物を検知し自動で回避、雨や雪でも走行可能
運行	ミライズグループ、BOLDLY

テーマ
近未来

車両にはテーマに沿ったペイントが施されています

テーマ
日高山脈と自然

(14) 企業や専門家などと連携し、ICTを活用した多彩な授業づくりを進めます。

ICT教育を推進し、児童生徒が社会で活躍するための能力や資質の育成をはかるため、企業等と連携しプログラミングコンテンツを活用した授業づくりに取り組んだほか、オンラインの工場見学、デジタル技術を活用した不登校支援システムの導入などに取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆WEBサイト制作を通じて実践的に学ぶプログラミング教育アプリを市内の全中学校・義務教育学校に導入（R5～）
 - ・プログラミングの専門家と連携した授業支援として、各校の技術科の担当者向けの研修講座を実施
- ◆教室に居ながら企業の仕事を学ぶオンライン工場見学の実施（小2～5年対象）（R4～）
 - ・共催企業：明治なほほどファクトリー十勝、カルビー（北海道工場）、よつ葉乳業等
- ◆児童生徒がアバターを使って、バーチャル空間で学習活動や体験活動等を行うための不登校支援システム「ひろびろチョイス」の導入（R5～）



○チョイスの学び

- ・個別チョイス：自分がやりたい学びを自分で選択して学ぶ
- ・サポチョイス：フリースクールが提供する多様な学びを学ぶ
- ・クラブチョイス：興味関心が同じ小集団で楽しみながら学ぶ
- ・リモートゲームチョイス：オンラインで遊びながら学ぶ
- ・遠足チョイス：十勝・帯広の様々な人や場所へ行って体験から学ぶ
- ・企画チョイス：「やってみたい！」を企画し学ぶ



○オンライン工場見学 参加人数

	人数	年月
明治	1,686人	R5.7、R6.2 R6.7、R7.9
カルビー	1,060人	R7.11
よつ葉乳業	326人	R8.1

○「ひろびろチョイス」の登録者数

R5	R6	R7（R7.12時点）
139人	126人	113人

4 未来を信じるまち

国全体で急速な人口減少が進む中、帯広市は、農業を中心とする強固な産業基盤や新しいことに挑戦する風土を背景に、比較的緩やかな人口減少となっています。

ここに暮らす誰もが地域に誇りと愛着を持ち、明るい未来を信じて、それぞれの挑戦や行動を続ける活力ある地域社会の実現のため、第七期総合計画の着実な推進はもとより、管内町村や東北北海道との連携強化、感染症対策などを進めました。

(15) 十勝管内はもとより、東北北海道の中核都市などとの連携を一層強化します。

地域の持続的な発展につなげるため、十勝管内の町村や東北北海道の中核都市と連携し、災害時に被災地等で活用することを想定したムービングハウスの導入や海外プロモーションの実施による東北北海道の観光PRなどに取り組みました。

主な取り組み、実績等

- ◆第4期十勝定住自立圏共生ビジョンを策定
 - ・インバウンド誘客や鳥獣害防止、除雪などの新たな分野を含めた広域連携の推進
- ◆道東六市防災協定に基づく災害対応力や回復力の向上
 - ・災害時の避難施設やトイレとして活用可能なムービングハウスを導入
 - ・各市の防災対策の共有、展開のための実務担当者会議を定期開催
- ◆十勝インバウンド誘客推進協議会の設立
 - ・十勝が一体となり地域の魅力を生かしインバウンド誘客を推進
 - ・国際定期便の継続就航に向けた観光コンテンツの販路拡大
- ◆東北北海道の周遊観光の促進
 - ・東北北海道の冬の魅力をまとめた観光パンフレット「冬へのいざない」の制作
 - ・ひがし北海道自然美への道DMOと連携した誘客の実施
 - ・国際定期便客を対象とした東北北海道周遊観光ツアー造成に向けた観光プロモーションの実施 (R7.12)
- ◆19市町村のごみを処理する新中間処理施設の建設 (R5.11～)
- ◆二次救急医療体制維持のため、十勝19市町村による医療機関への支援 (R6.4)
- ◆有事に備えムービングハウスを帯広市で3基、釧路市で1基導入 (R6.3)
- ◆とかち帯広空港初の国際定期便(帯広－韓国清州) 就航 (R7.5～)
(帯広－韓国仁川) 就航 (R7.11～)

とかち帯広空港 国際定期便就航



ムービングハウス
(平時はおびひろ動物園のトイレとして活用)

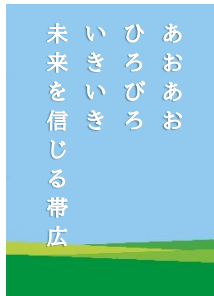


(16) 第7期総合計画の着実な推進を図ります。

市民と市がまちづくりの方向性について共通認識に立ち、それぞれの役割を担いながら、地域課題の解決に取り組み、活力ある地域社会の実現につなげていくため、施策や事務事業の評価検証、取り組み内容の改善や見直しを行い、第七期帯広市総合計画の着実な推進をはかりました。

主な取り組み、実績等

- ◆総合計画の推進するため、第二次、第三次推進計画を策定
毎年度、事業の評価・検証を行い事業内容を改善
- ◆総合計画に即した分野計画を策定
けんこう帯広21、食育推進計画、
自転車活用推進計画、
まち・ひと・しごと創生総合戦略、
住生活基本計画、空家等対策計画、
帯広市ゼロカーボン推進計画 など



○総合計画の23施策の進捗状況

	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
順調	5 施策	4 施策	5 施策	7 施策	6 施策
概ね順調	9 施策	8 施策	11 施策	10 施策	12 施策
さらなる進捗が必要	9 施策	11 施策	7 施策	6 施策	5 施策

【4年間の主要事業】

- 1. ともに支え合い、子どもも大人も健やかに暮らせるまち
 - ・子どもの医療費助成の拡充
 - ・障害者理解促進の体験型イベント
 - ・豊成保育所の民間移管
- 2. 活力とにぎわいと挑戦があるまち
 - ・奨学金返済を支援する企業への補助
 - ・国際定期便就航への補助
 - ・消防団詰所・農業センター複合施設整備
 - ・宿泊税の導入
- 3. ともに学び、輝く人を育むまち
 - ・キリン舎、馬ふれあい舎等の整備
 - ・学校体育館の照明のLED化
 - ・地方大学・地域産業創生交付金事業
 - ・学校施設のエアコン整備
- 4. 安全・安心で快適に暮らせるまち
 - ・web版ハザードマップ整備
 - ・避難所の非常用発電機整備
 - ・地域防災無線の更新
 - ・大空団地の建替え
 - ・水道料金基本料金の免除
- 5. 多様な主体が活躍する地域社会の形成・自治体経営の推進
 - ・大空会館の移転改装
 - ・窓口サービスのスマート化
 - ・アイヌ民族の文化伝承等に利用される生活館の改修
 - ・ふじまるビル除却支援事業
 - ・公共施設等整備保全基金の創設

(17) 新型コロナウイルス感染症から市民の生命と暮らし、地域経済を守ります。

市民が安心して暮らせるよう、国や北海道の方針に基づき、医療機関等と連携しながらワクチンの接種や感染防止対策の周知啓発を進めたほか、地域経済の回復に向けた支援などに取り組みました。

主な取り組み

◆感染防止対策の推進

- ・医療機関等と連携し、希望する市民がワクチンを接種できる体制を整備

◆暮らしの不安軽減に向けた取り組みの実施

- ・関係機関等との情報共有や市民からの相談対応
(新型コロナウイルスに関する相談件数 R4：3,542件、R5：631件)
- ・新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の支給

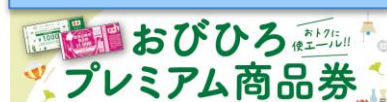
◆地域経済の回復に向けた支援

- ・感染症の影響により売上減少や原材料の価格高騰の影響を受ける中小企業を支援
事業継続緊急応援支援金 (R4：1,761件 8,805万円)
- ・感染症の影響を受けながらも販路拡大に取り組む小規模事業者を支援
小規模事業者緊急支援事業補助金 (R4：27件 257万円 R5：18件 168万円)
- ・感染症の影響に加え燃料価格高騰による影響を受ける貨物自動車運送事業者を支援
運送事業者臨時支援事業 (R4：2,035台 4,619万円)
- ・感染症や物価高騰に伴い落ち込む個人消費の回復や地域経済の活性化
帯広市プレミアム付き商品券事業
(R4：発行数 20万冊 利用額 24億5,518万円)
- ・感染症の影響により利用客が減少したとかち帯広空港の利活用促進
とかち帯広空港利用促進事業
(R4：航空券助成 9,582人 2,875万円、宿泊助成 2,907人 581万円)

ワクチンの接種の様子



帯広市プレミアム付き商品券事業



＜帯広市政策推進部企画室企画課＞

〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地

TEL:0155-65-4105 FAX:0155-23-0151

E-mail:plan@city.obihiro.hokkaido.jp